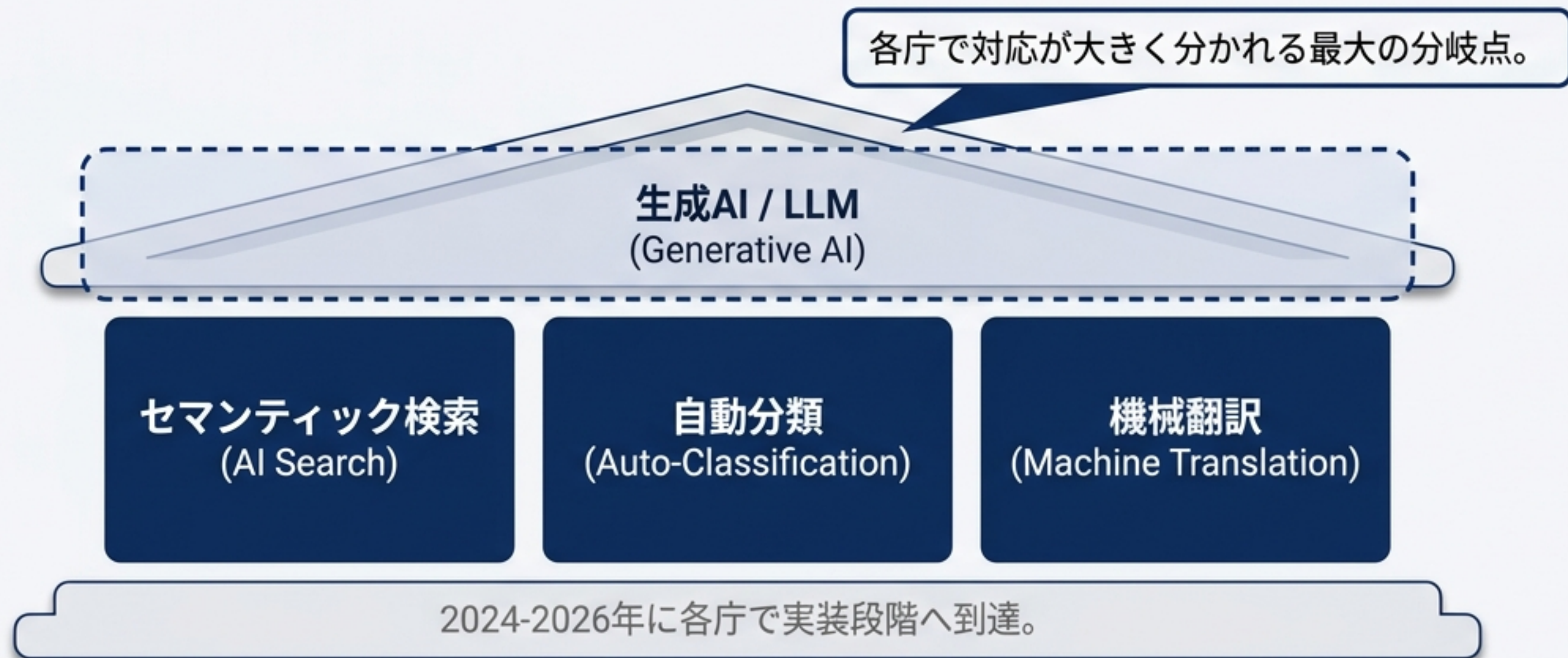




世界主要特許庁（IP5）における AI活用動向 2024-2026

実務者向け戦略的インテリジェンスと
アクション・プレイブック

IP5の共通スタンス：「代替（Replace）」ではなく「支援（Assist）」



人間関与の徹底

全庁が審査官の最終判断責任
(Human-in-the-loop) を維持。

透明性の確保

AI利用の履歴明記と公衆への通知
(USPTO, EPOなど)。

定量指標による管理

品質指標（EPO：分類95%以上
等）による厳格な品質統制。

最大の分岐点：生成AI・LLM導入に対する「受容度スペクトラム」

慎重・制限

積極的・内部展開



JPO

- 審査管理業務への適用を一時凍結
- 行政事務と審査を切り離し慎重に実証



EPO

- 私設サーバでの内部AIモデル運用に限定
- AI利用でも当事者・代理人が責任を負う



CNIPA

- 大規模AIモデルを探求中
- AI推論結果を審査意見として直接用いることを禁止



USPTO

【USPTO】
SCOUT（内製生成AI）を
200名超で運用

【KIPO】

LG AI Researchと提携し特許行政特化の88億パラメータLLMを開発

KIPO

【USPTO】生成AI展開と出願人向けツールで突出するフロントランナー

戦略&ガバナンス

AI戦略（2025年1月）

包摂的AIイノベーション、
インフラ構築、責任あるAI
利用など5本柱。

ガバナンス

生成AIの利用は禁止せず開
示義務もないが、提出物の
正確性確保（判例・科学的
根拠の引用検証）を実務者
に要求。

SCOUT

LLMベースの内製チャットボッ
ト。コード開発・不適切出願検
知などに活用（2025年6月時点
で200名超利用）。

審査官向けAI検索

Similarity Search（12.5万件超
で使用、引用率3割超）と
MLTD（約85万回利用）をPE2E
Searchに統合。

ASAP! (Automated Search Pilot)

審査前段階へのAI直接統合。最
大10件の関連文献リスト
（ASRN）を出願人に提供。

DesignVision

意匠審査官向けAI画像検索。最
大7枚の画像をクエリに、80超
の登録簿を横断検索。

【EPO】 単一検索基盤への統合と、厳格な品質指標（KPI） による統制

戦略&ガバナンス

1. AIポリシー（2025年2月）

EU AI規則との整合。審査官が関連文書の最終レビュー責任を保持（Assisting, not replacing）。

2. ガイドライン明記

AIツール作成文書であっても、出願内容の責任は当事者・代理人にある旨を審査ガイドラインに追加。

ANSERA（AI検索基盤）

2024年に旧EPOQUEを廃止し唯一の検索ツール化。550万件の標準化文書を統合。概念検索や図面相対位置検索を実装。

セキュリティ

新規・未公開出願には、クラウドではなく私設サーバで動く内部AIモデルを使用。

EP-AutoCla（自動分類）

800万件の人手分類済み文書で学習。



ルーティング
正確性: $\geq 90\%$



分類品質:
 $\geq 95\%$

Patent Translate

Google協業のNMT。1日平均約15,000件の翻訳要求を処理。

【CNIPA】圧倒的データカバレッジと「補助的役割」の厳格な線引き

戦略&ガバナンス

厳格な役割定義

AIは「補助的役割（auxiliary role）」。AIの推論結果を審査意見（OA）として直接用いてはならないと明言（2025年6月）。

統合システム

「中国專利智能検索系統（2021）」と、ライフサイクル全体をカバーする「中国專利智能審査系統（i系統、2023）」を展開。

96%

自動分類精度
（IPCサブクラス等）

-31.6%

智能検索の漏れ率削減
（国内出願。PCT出願は-25%）

15.5ヶ月

平均審査期間
（結審正確率は95.2%）

約1,300万件

意匠画像検索カバー数
（引用先行技術の90%が上位30件に出現）

【KIPO】世界初・特許行政特化型の超大規模言語モデル（LLM）開発

戦略&ガバナンス

AIロードマップ

「世界最高のAIベース審査・審判システムの構築」を掲げる。

次フェーズへの投資

2025年予算で、AIモデル開発・適用の次フェーズに本格着手。

PCT出願への波及

KIPOをPCT国際調査機関（ISA）として利用する出願人にも、AIベースの先行技術調査の便益が及ぶ。



【JPO】 検索高度化への着実な移行と、生成AIに対する慎重な切り分け

戦略&ガバナンス

AIアクション・プラン

毎年改定（最新は令和7年度改定版）。

業務の切り分け

生成AIについて「行政事務」と「審査業務」を明確に分けて実証。

審査管理の実証凍結

令和5年度実証を踏まえ、特許審査管理業務へのAI適用は「一時凍結」。
最も慎重なスタンスをとる。



先行技術調査②（検索手法の高度化）

実証結果を踏まえ、「導入フェーズ」へ移行。
スマート検索を志向。



AI機械翻訳（J-PlatPat）

中日・韓日の和訳でBLEUスコア45～60以上の
高品質を達成。
2020年以降の中韓文献の検索精度向上に直結。



生成AIの審査業務適用

新設項目として、令和7年度に技術実証を実施。



特許審査管理業務へのAI適用

令和5年度実証を踏まえ一時凍結。

国際協力：IP5とWIPOによるAI連携の制度化

圧倒的シェア



IP5庁は世界の特許出願の約85%（2024年：総出願約373万件中、約318万件）を管轄。標準化のインパクトは甚大。



NET/AIロードマップ

自動分類、機械翻訳、審査実務ガイダンス、統計交換の協力分野で5年間の進捗を確認。

IP5 AI専門常設 ワーキンググループ

2026年6月
東京会合で新設合意

WIPO提供ツール



WIPO Translate (NMT)、IPCCAT (IPC自動分類)、Global Brand Database (商標画像類似検索)。



IP5 MMT

Mutual Machine Translation (五庁間機械翻訳) の本格稼働。

【統合マトリクス】IP5 AIケイパビリティ比較（2024-2026）

	AI検索 (Semantic/Image)	自動分類 (Auto-Classification)	機械翻訳 (Machine Translation)	生成AI内部展開 (GenAI / LLM)
JPO	スマート検索導入へ ●	外国語文献付与 ●	中日・韓日 (BLEU45-60+) ●	実証段階・ 審査管理は凍結 〇
USPTO	Similarity Search / ASAP! ●	PE2E統合 ●	(IP5 MMT等活用) 〇	SCOUT運用(200名超) ●
EPO	ANSERA(唯一の基盤) ●	EP-AutoCla (≥95%) ●	Patent Translate ●	私設サーバ運用 ●
CNIPA	智能検索系統(漏れ率減) ●	精度96% ●	英⇔中 双方向 ●	大規模AIモデル探求中 〇
KIPO	AIベース調査構築中 〇	CPC学習反映 ●	特化LLM ●	特許特化LLM (88億param) ●

各庁の強み・弱みを把握し、出願ルートに応じた事前調査・対応戦略を構築することが不可欠。

Spotlight: USPTOがもたらす実務への直接的インパクト

ASAP! (Automated Search Pilot) 利用フロー

1. 要件

非継続・非仮の原出願 / 独立クレーム1以下・総クレーム10以下

2. アクション

出願日に Form PTO/SB/470 と
手数料（大規模\$450/小規模\$180）を提出

3. 結果

審査前に「自動検索結果通知（ASRN）」を受領
（AIランク付け最大10件の関連文献）

4. 戦略的判断

応答義務なし。予備補正、審査繰延、放棄（手数料還付）の
判断材料として活用



意匠出願ハードルの上昇

「DesignVision」導入とLKQ判決により、あらゆる分野の先行意匠がAIで横断的に引用されるリスク。出願前の画像ベース先行意匠調査とデザイン・アラウンドの余地確保が必須に。

アクション・プレイブック ①：直ちにすべき対応（0～3ヶ月）

Urgent

Action 1: USPTO ASAP! の案件別活用判断

What



米国出願時、コンパクトな原出願に対して早期先行技術ランドスケープ把握のためにASAP! を利用するか否かを社内フローに組み込む。

Why



複雑発明は外部調査機関が優れるが、コスト・速度をケースバイケースで比較し、戦略的放棄や予備補正の武器とするため。

Urgent

Action 2: 意匠出願前の事前画像検索の強化

What



USPTOでの登録ハードル上昇に備え、出願前にAI画像検索ツールを用いた先行意匠調査を強化。

Why



DesignVisionにより、審査官が視覚的特徴の重み付けやテキスト/分類フィルタを駆使して広範な先行意匠を容易に発見できるようになるため。

アクション・プレイブック ②：中期的な業務最適化（3～12ヶ月）

Priority

Action 3: 審査官AIツールの「挙動」への習熟



What

USPTO Similarity Search、EPO ANSERA、CNIPA 智能検索の概念検索・類似文献検索の仕組みを理解する。



Why

審査官と同じロジックで事前調査を行うことで、OA予測の精度を上げ、開示・クレーム戦略を最適化するため。

Priority

Action 4: 中韓文献調査の高効率化



What

J-PlatPatの高品質AI機械翻訳（BLEU45-60以上）を一次調査のデフォルトプロセスに組み込む。



Why

JPO審査官の検索精度向上に寄与している中韓DBを、出願人側でも低コストかつ早期に確認し、想定外の引例を防ぐため。

Priority

Action 5: 自社内AI利用のガバナンス規程整備



What

明細書ドラフト等での生成AI利用において、引用判例・根拠の正確性検証プロセスを社内ルール化する。



Why

USPTOやEPO(epi)のガイドラインに準拠し、AIのハルシネーションによる手続き上のペナルティや責任問題（当事者・代理人責任）を回避するため。

戦略的レーダー：判断を変える4つの「ベンチマーク」(12ヶ月～)

長期 (12+ Months)

USPTO Trigger

ASAP! の恒久制度化 /
全クレーム類型への対象拡大

Impact: 出願前AI検索の米国
標準ワークフロー化

JPO Trigger

審査管理業務への生成AI適用の
「凍結解除」と「導入」転換

Impact: 日本案件におけるOA
傾向の変化、スピードの再評価

KIPO Trigger

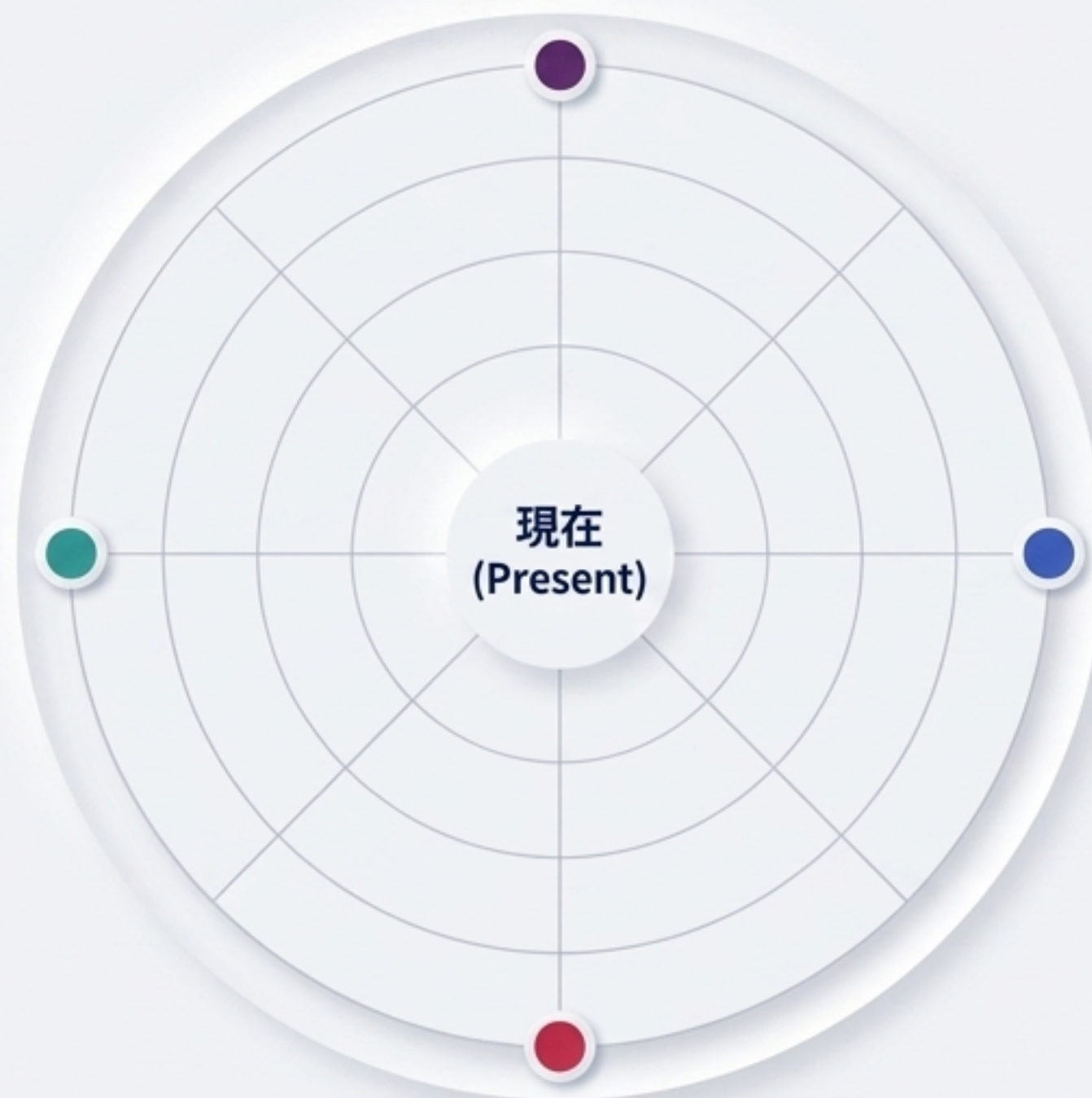
88億パラメータ特許特化LLM
の審査支援本番稼働

Impact: KIPO-ISA経由のPCT出
願における調査品質の大幅向上
を織り込んだ出願ルート選択

CNIPA Trigger

AI推論結果の「OA自動生成・
進捗性評価」への正式投入

Impact: 中国案件の審査の質・
速度の劇的变化に備える



長期 (12+ Months)

インテリジェンスの注意事項 (Caveats & Data Governance)

確認済み事実 (Official / Verified)

- 各庁公式サイト・政府プレスに基づく情報。
- JPOアクションプラン令和7年度改定版、USPTO ASAP!告示、EPO ANSERA統合、KIPO予算・提携発表、CNIPA記者会見（AI補助的役割の明言など）。

Action

これらは確定事項として自社戦略の前提としてよい。

推測・未確認・将来目標 (Estimates / Unconfirmed)

- USPTO運用統計: MLTD 85万回利用などは報道・二次情報経由。
- CNIPAベンダー情報: SugonによるAIプラットフォーム開発は二次情報であり、公式確認・展開規模は不明。生成AIについても「探求中」の段階。
- 将来の目標値: KIPOの本番稼働、IP5新ワーキンググループの具体的成果は計画段階。

Action

第三者の民間商用ツール（cnipa.ai, Tokyo.Ai等）と庁公式の取り組みを混同しないよう注意が必要。